

**古地図満載！
「郷土誌葉山」第8号発売**

4月24日に「郷土誌葉山」第8号が発行されます。テーマは「続・堀内」です。「郷土誌葉山」は、これまでに町内を一通り巡り、創刊号の「鑑摺」特集、3号の「堀内」特集に続き堀内を扱うのはこれで3回目になります。

今回の特長はなんとといっても古地図の多さです。堀内は「葉山家文書」のほか、多くの絵図や切り図が残されており、これらを行きついでに豊富に掲載しました。また、現在の地図に重ねることで郷土の歴史が浮かび上がります。新たに発見された古文書からは、これまでとは違う解釈もだされています。

「郷土誌葉山」第8号を手にして「プラー堀内」をお楽しみください。



**集まれスポーツキッズ
一緒に汗を流そう！**

葉山で30年以上続いている小学生のフットボールチーム「葉桜ファイターズ」現在、葉桜ファイターズでは新しいメンバーを募集しています。

いつでも練習体験することができたり、すぐに試合にも出られますよ。

思いっきりバットを振ったり、キャッチボールを楽しみませんか？女の子も大歓迎です。

〈対象〉小学生
〈場所〉葉山小学校または長柄小学校の校庭
〈練習日〉土曜、試合のない日曜、祭日の12時から
〈試合日〉主に日曜
〈問合せ〉046(875)2234
葉桜ファイターズ 加藤



☆協会からのお得な情報！☆

あなたの自慢の「葉山の花」待っています！「フォト広場」係

葉山まちづくり協会のホームページがにぎやかに、少しずつ皆さまの生活に浸透してきていることを感じる今日この頃です。

写真投稿コーナー「葉山フォト広場」では、葉山まちづくり協会会員の方だけでなく一般の方からも写真を投稿いただくなど、スタッフ一同嬉しいかぎりです。

「葉山フォト広場」では、3月～5月のテーマを「葉山の花」と題し写真を募集しています。あなたが撮った自慢の一枚が町の話題を呼びます！今すぐ投稿しよう。テーマ以外の海・山・家族などの題材も受付中です。

ホームページでは日々新しい情報を更新しています。あなたが催すイベントの情報を「何かいいことないかなカレンダー」にお寄せください。



**復興への歩み
仲間たちのちから！**

2011年3月31日発行 第四号
NPO 法人葉山まちづくり協会
240-0112 三浦郡葉山町堀内1874
町立図書館2階
TEL&FAX 046-876-0421
e-mail : office@hayama-npo.or.jp
HP : http://www.hayama-npo.or.jp

をいくと舗装も終わり、砂利道が右へ大きく曲がる。
もう一度ヘアピンカーブを上っていく

と二子山山頂につく。
展望台は眺めよく北は横浜方面、南は大桶山方面が見渡せ、見通しのよい日には房総の山々も見える。新緑の木々の間に桜の花がたくさん見える。



牧場手前の花畑

雨量で増減する大池

桜を見に行こう

仙元山の桜は枯れてしまったが、三ヶ岡山などいくつかの桜の見所がある。今回は「南郷上ノ山公園」に行ってみる。

長柄交差点バス停から新しい道を歩いて35分で南郷公園につく。ロータリー左の道を行きトイレ先のゲートを通り、坂を上ると10分で右上の『桜と野鳥の森』



南郷公園の桜

新緑の山道への誘い

さて、桜がおわったら次は新緑を楽しむ。葉山公園の入り口の十字路を公園と反対側の道を進む。右に児童会館を見て狭い曲がりくねった道をいくと15分ほどで右の木の下に石塔群がある。茅木山の石塔である。

その手前右の坂道を上る。7分で右に山へ登る細道がある。そこを5分ほど登ると畑に着く。休憩用にベンチがあり、そこに座っていま来た方面を見るとすぐ前に一色台団地、右奥に上山口の里山や家々が見える。

再び山に入っていくと7分で大池につく。池は破砕帯に湧出してできたものだが、雨量によって増減する。池の中にウキヤゲラ、オギなどが生える貴重な場所である。

池の南を回り、崖を登っていくと舗装道路に出る。そこを左にくだるとすぐ左へ曲がる。まもなく馬の牧場に出る。途中の花畑が綺麗だ。

ここから10分、草の中の道を歩く。右下に久留和の海岸が見えてくる。まもなく上りになり、分岐点に出る。ここは右へ笹藪の中を下る。周りは花畑、菜の

ガカポカの春到来 イベント情報

児童・生徒のための美術体験教室
岩絵具や膠(にかわ)を使って日本画を描きます。
〈場所〉山口蓬春記念館生涯学習室
〈〆切り〉4月20日(水)
〈申込み〉山口蓬春記念館 TEL 046-875-6094

5月15日(日) 葉山メダカを増やしませんか
絶滅危惧種のクロメダカをご家庭で楽しみながら増やしていただける方への講習会です。
〈場所〉花の木公園広場
〈申込み〉葉山メダカの会事務局 吉川(キッカワ) TEL 046-875-8658

6月4日(土)・5日(日) 山口蓬春記念館呈茶会
季節のお菓子と抹茶をお楽しみください。
〈場所〉山口蓬春記念館「桔梗の間」※通常非公開
〈〆切り〉2日前までにご予約ください
〈申込み〉山口蓬春記念館 TEL 046-875-6094

※イベントの詳細はまちづくり協会ホームページ「何かいいことないかなカレンダー」をご覧ください。

4月23日(土) 長柄地区歴史散歩
みんなで楽しく歩きながら歴史を学びます。
〈集合〉長柄交差点バス停 9時30分
〈〆切り〉4月19日(火)
〈申込み〉葉山町文化財研究会 斉藤 TEL 046-875-7726

4月30日(土) 新緑の山歩きをしませんか
役場～実教寺～仙元山コースを歩きます。※雨天中止
〈申込み〉二子山山系自然保護協議会 山楽会部会 TEL & FAX 046-878-7431 伊東

4月30日(土) 第8回無料掘出し市
古着、古本、日用品など、まだ使える品を自由にお持ち込み・お持ち帰りください。
〈場所〉一色会館
〈問合せ〉ゼロ・ウェイストを考え・進める会 TEL 046-875-4727 山田

5月4日(水祝) アースデイ葉山2011
ビーチクリーンで海をきれいに、磯遊びで生きものとふれ合ったり、海に親しみ感謝するイベントです。
〈集合〉一色海岸特設テント
〈申込み〉NPO法人オーシャンファミリー海洋自然体験センター TEL 046-876-2287

ママたちの子育てに強い味方「ほけっと」大活躍



子育て支援センター「ほけっと」がオープンして2年半。葉山にすっかり根づき育っています。「幸せな気持ちになる子育てができるようにサポートしたい」との願いをこめた4つの大きな活動があります。

〈あそびのひろば〉未就学の子どもと保護者がひろばで遊べます。(無料)
 〈子育て相談〉子育てについての悩みの相談ができます。電話でもOK。(無料)
 〈一時預かり〉生後2ヶ月から就学前までの子どもをニーズに合わせて預かります。(有料)



子どもの目がきらきら輝く遊びのひろば

〈ファミリーサポートセンター〉0歳から小学生までの会員の子どもを支援会員がサポートします。(有料)
 センター長の山浦彩子先生を中心に、職員の配慮に支えられ、子どもも保護者ものびのび安心して過ごせる環境です。

だるまができあがり、子どもたちはうれしそうなお顔。室内にはカラフルな遊具や小さな家など、子どもたちの好きそうなものがいっぱい。それぞれお気に入りのもので遊んでいるのを、保護者も職員も見守っています。11時頃になるとみんな丸くなって集まります。歌、手遊び、絵本の始まり。子どもたちは目を輝かせて動かして楽しみます。お昼はお弁当を持ってきて別の部屋で食べることもできます。

充実してきたのは「ほけっと園芸活動」。一年中季節ごとにサツマイモ、ジャガイモ、枝豆、大根、花などを植え付け、発芽、開花、収穫、試食までみんなで楽しめます。

また「リサイクルコーナー」もできました。ママたちの「このために何かできたらいいな」の声から始まったそうです。自由に持って来て自由に持っていくコーナーの棚には、子ども服や小物がきれいにならべてあります。

そして去年4月から始めたのが「0歳児の集い」。どんな人にも悩みはありません。特に初めての子育ては不安がいっぱい。「自分だけダメ」と思い込んで落ちこんでいるママも「ほけっと」に来て他の人と話すと「私だけじゃない」と心が楽になります。何度か来ると子育ての悩

みを話せるようになるそうです。

「子どもの喜び、ママの喜びが私たちの喜び」と話す山浦先生。「日々の小さな積み重ねを続けてその人のことを思っただけで、必ず信頼して心を開いてくださるのです」と温かい言葉が続きます。「ほけっと」を子どもが楽しく遊べる場所に、ママがほっとできる場所に、それ

活気ある商店街HPを発信する「葉山元町商店会」



森戸神社の海岸から見る夕日。海辺がすがすがしい森戸界隈。バス停では、元町から森戸神社までが葉山元町商店会で。ここは明治時代から続く老舗と新しいスタイルの店舗が共存している、個性的で魅力あふれるお店が並ぶ商店会です。

各店でもらえるMOTOMACHI・MAPには、そんな地域を大切に歩むお店の数々が紹介されています。そして今年の2月からホームページが内容豊富にスタートして、各店の特色と特典などが素敵な写真と文で登場紹介されています。

時代の移り変わりや町の様変わりとともに買い物の様子も変化してきました。昔の買い物は肉屋↓魚屋↓八百屋と各商店を回っていましたが、駐車場のあるスーパーが出来て一ヶ所でお済ませようになると、商店会に元気がなくなった時期もありました。しかし葉山を愛してきた

が一番の願いだそうです。そのために「ほけっと講座」「子育てサロン」「おしゃべりサロン」とイベントも盛りだくさん。いつも笑顔あり泣き顔あり、元気な声がひびいて子どもの生きる力が育っています。ママたちのどんな心配ごとでも「ほけっと」に相談してみれば？
 〈問合せ〉046(876)4152

人たちが想いを総結集して、現在の活性化を目指す前向きな商店会へと進化してきました。

そんな想いがこもって出来たホームページでは、イベントの紹介、元町の歴史、観光案内、商店街マップ、森戸海岸のライブカメラ、ダイヤモンド富士の絶景、プロモーションビデオ、ショップブログ、そして新しい商店街の提案を発信し続けています。

商店会長の矢部さんは、「線」の商店会ではなく「面」の商店会を目指しています。元町ブランドが出来たらよいし、葉山の特色をもつバラエティーに富んで楽しめるお店が見つかると思うので、ぜひみなさん足を運んでください」と話されました。



http://hayamamotomachi.com

いまも残る下山口の歴史と風景 《葉山の道》④ 下山口

早春の下山口を梅の香りに誘われて歩きました。

スタートは「かながわ景勝50選」のひとつ長者ヶ崎。上方から見ると大蛇の背のようなので、「長蛇ヶ崎」とも記されていたそうです。旭硝子寮脇の小道を入って行くと松林が美しい県立葉山公園。ここは御用邸付属の馬場でしたが、昭和21年に宮内省から県に払い下げられ公園になりました。

葉山公園を抜けて国道へ。このあたりは明治の頃の建物が残っていて、昔懐かしいたずまいです。御用邸坂上にある理髪店には風呂屋風ののれんがかかっています。右に下山口の鎮守・神明社。この庚申塔は葉山で一番大きいもので天明元年(一七八一年)造立。



風景山里のどかなるに広がる地源水

神明社の裏を左へ行くと浄土宗の万福寺。下山口の領主・鎌介が自宅を全部寄進して寺としたそうです。ここは葉山ボーイスカウト発祥の地としても知られています。山門を出て

日経新聞保養所前の細い坂を上ると長者ヶ崎・富士山・江の島・鎌倉が一望に見渡せる絶景スポット。住宅地をしばらく歩き、右側の階段を昇り急な坂道を下ると右に茅木山の庚申塔。



星山の庚申塔

下山川の平橋を渡って川沿いを歩き、カブミラーを左へのぼって行くと平の庚申塔。ここは河津桜が濃いピンクの花をつけていて美しい。左の山道を柵田を見ながら上ったところに平兼盛の墓と伝わる五輪塔があり、「忍ぶれど色に出にけりわが恋はものや思ふと人の問ふまで」の歌が掲げてあります。

庚申塔を左へ下り満開のミモザを眺めながらさらに左へ行くと、三大茶人の一人島山氏の別荘だった茅山荘。茅葺きの門の趣のある風景に見とれます。

星山橋を渡り、山道を上りきると星山の庚申塔。水仙がちらちら咲く道を右へ行くと広々とした梅林。入口に梅の巨木があります。

大きなコブシの木の道を下ると右に水源、左には梅林・竹林・畑がのどかに広がり素晴らしい里山の風景です。水源の橋を渡り、山道を抜けて唐木作の庚

申塔へ。右へ進み県道を渡ると吾妻社。日本武尊が東征の途中、こんなこと湧き出る水場で休息したと伝えられています。

再び県道を渡り、さつき来た道に戻って広い坂道を上ると左に急な階段。一色台地の造成時に造られた「見晴坂」は上りきると三ヶ岡、大山、仙元山、鎌倉方面まで見渡せます。資源小屋のそばには桜並木。河津桜の大きな木が満開の見事な花を咲かせていました。

集う楽しさ！伝える喜び！

PTAと聞くとちよつとお堅いイメージを連想してしまいがちですが、お母さんたちは自由で豊かな感性をもつて、さまざまところで活躍されています。

まちづくり協会の登録団体である葉山中学校PTA。広報委員会では年に3回広報誌を発行しています。学校行事や生徒の活動、また先生方の紹介など実際に取材を行い、記事を作り、葉山中学校の様子を家庭や地域へ伝える役目を担っています。保護者の目線で見



まちづくり協会でもご覧いただけます

て感じたことを綴った文や

つきあたりの山道を山歩きの気分で行くと主馬寮公園、下山川沿いに鉄管橋。水源地から御用邸へ良質な水を運ぶために造られた導水管で、大正2年の銘があります。

明治・大正・昭和の皇太子の葉山行啓を祝して昭和11年に葉山町が建立した御用邸前の恩光碑に着いてゴール。

葉山中学校PTA

写真には子ども達を見守る温かさが感じられます。

そしてもうひとつ、頑張るお母さん達が集う「葉山中学校PTAコーラス」。現役PTAからOGまで、19人のお母さん達で構成されています。練習は毎週水曜日、実に明るいお母さん達が揃い、練習は終始朗らかな雰囲気で行われています。発表の場は葉山中学校の合唱コンクールと葉山文化祭。昨年の合唱コンクールでは先生方と一緒に「モルダウ」を合唱、葉山文化祭では揃いのTシャツに身を包み3曲を披露しました。

力を合わせて一つのものを作り上げる過程で仲間意識が強まり、そこから新しい絆が生まれ、それはやがて学校や子どもを見守るそして地域に還元できる大きな力となることでしょう。